

平成 3 1 年度学校教育教員養成課程

(推薦入試Ⅱ型)


小学校教育専修家庭科教育コース

中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

表 紙

[解答上の注意]

1. 試験開始後、表紙 1 枚、問題用紙 1 枚、解答用紙 1 枚、下書き用紙 1 枚があるか、確認しなさい。
もし、欠落のある場合には挙手して、そのむねを申し出なさい。
2. 解答用紙の受験番号欄に、受験番号を忘れずに記入しなさい。
3. 解答は、それぞれの設問ごとに指定された解答用紙に、指定された文字数で、横書きで記入しなさい。句読点も 1 字に数えます。
4. 解答用紙の太線  部分には、何も記入しないようにしなさい。
5. 試験終了後、解答用紙を回収します。(全 1 枚)
表紙を含め、問題用紙、下書き用紙は各自持ち帰りなさい。(全 3 枚)

平成31年度学校教育教員養成課程

(推薦入試Ⅱ型)

小学校教育専修家庭科教育コース 中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

問題用紙 全1枚

問題 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

社会環境や食生活が大きく変化している中で、家庭において子どもたちに十分な指導を行うことが困難となりつつあるばかりか、保護者自身が望ましい食生活を実践できていない場合もあります。また、地域の産物を使って独自の料理法で作られ食べ継がれてきた郷土食、古来から行われてきた行事にちなんだ行事食などの食文化が失われつつあり、食を通じて、地域等を理解することや失われつつある食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することが重要となっています。

このような現状を踏まえて食育を推進するに当たり、第一義的な役割が家庭にあることには変わりありませんが、学校においても食育を一層推進していくことが求められています。

児童生徒が食に関する理解を深め、日常の生活で実践していくことができるようになるためには、学校と家庭との連携を密にし、学校で学んだことを家庭の食事で実践するなど家庭において食に関する取組を充実する必要があります。

また、地域の産物を学校給食に取り入れたり、食に関する知識や経験を有する人材や教材を有効に活用したりして食に関する指導を進めていくことが、児童生徒に地域のよさを理解させたり、愛着をもたせたりする上で有意義と考えられます。各地域には、その地域の気候、風土、産業、文化、歴史等に培われた食材や特産物が生産されており、郷土食や行事食が伝承されていたり、生産や流通にかかわる仕事や食育のボランティアをしている方々がいたりします。具体的な指導の際には、このような地域の教育力を活用することが極めて有効と考えられます。地域との連携を深め、地域の協力を得ながら学校における食育を進めることで、児童生徒とその家庭の食生活が向上したり、地域の人々の食に関する関心を高めたりすることが期待できます。

このように、学校において食育を進めるに当たっては、広く家庭や地域との連携を図りつつ食に関する指導を行うことが必要であるとともに、家庭や地域においても食育に対する理解が進み、児童生徒に対する食育の取組が行われるよう、学校から積極的に啓発等の働き掛けを行っていくことが大切です。

(出典：文部科学省『食に関する指導の手引—第一次改訂版—』東山書房、2010年より一部抜粋。表記を一部変更した。)

問1. この文章の内容を200字以内で要約しなさい。

問2. 学校・家庭・地域において食育を推進していくことが求められている背景には、どのような問題がありますか。具体例を挙げながら、あなたの考えを400字以内で述べなさい。